

経営者の皆さまに、
充実のオフタイムを。



JP かんぽ生命
INSURANCE

かんぽスコア7

Vol.136

ご勇退後の生活を実り多いものとするためのご準備にもお役にたください。

盆栽の世界

心の癒しと創造の喜びをかなえる。



山田香織さんは、NHK・Eテレ「趣味の園芸」のキャスターを務めた。『はじめての盆栽 失敗しない8つのコツ』(世界文化社)など著書も多数。

木と対話する中で 見えてくる自分の景色。

鉢や盆に樹木を植え、その姿を鑑賞する盆栽。枝葉の形を整えたり、石やコケなどで演出を施したり、自らの美意識を投影する表現活動を伴った芸術作品だ。究めるには奥が深く、初心者にはハードルが高いと思われるかもしれないが、「複雑な形を作るばかりが盆栽ではないのですよ」と山田さんは説明を始める。「そこで盆栽とは、自分が好きな自然の再現だと考えてみましょう。旅先で見た景色や思い出の木、あるいは

海外でも根強い人気を誇る日本の伝統文化、「盆栽」。眺めて堪能するのもよし。育てて楽しむのもよし。風雅な趣をもつ「生きた芸術品」は、古くから多くの愛好者を虜とりこにしてきました。おうち時間を充実する趣味が求められる昨今にあつて、改めて脚光を浴びる盆栽の世界に足を踏み入れるべく、江戸・嘉永かえい年間から続く清香園の五代目家元・山田香織さんにお話を伺いました。

は身近な美しい風景に似た盆栽を見つけて愛めでるだけでも十分に楽しめます」
盆栽を探す上でおさえておきたいのが、鑑賞の基本。盆栽には、幹がやや前傾姿勢となる正面と、奥行きを出すために枝葉が多い裏面がある。そもそもは正面から見るように整えられているので、盆栽の前に立ち、全体を眺めるようにしよう。そして次に、下からのぞき込むといい。まるで大木を見上げるかのような迫力のある光景が広がる。樹形の全体もありありと見て取れ、盆栽が隠れもつ魅力が開示されることだろう。「枝ぶりとバランス、根張りの良さといった細かい鑑賞ポイントは、盆栽を見比べたり、同好の士と語り合ったりするうちに、自然と気がつくようになります。さまざまな種類をご覧になって、盆栽を見る目を養ってください」

丁寧な面倒を見て、成長と変化を楽しむ。

では、自宅で盆栽を育てるための要点を覚えてもらおう。まずは気に入る盆栽を見つけたのがスタートだが、「大型のものは難しいので、最初は小ぶりの品を選ぶといい」とのこと。鉢の大きさが10センチ四方程度のミニ盆栽も種類が充実しているので、家の置き場の広さに合わせて考えたい。

また、盆栽は、定番のマツやヒノキ、スギなどの「松柏」、ケヤキやモミジに代表される「雑木」、サクラなど花が咲く「花もの」、カリンなど実がなる「実もの」の大きく4つに分類される。初心者にも実ものは扱いにくいので、それ以外から選ぶといいだろう。

家で盆栽を楽しむのに最も重要な

のは、育てる環境を整えることだ。室内で鑑賞するにしても、基本的な

管理は屋外。1日に数時間は日に当てる必要がある。

その際、風よけのために鉢ごとプランター

に入れて置いておくとうい。軽石を敷き詰めて

おけば保水性が備わるので、根やコケのうるおいを維持できる。

「そして、基本にして一筋縄ではないのが水やりです。種類や環境によつてまちまちで、適切なタイミン

グが分かるようになるまで3年はかかるというわれています。原則的には、春秋は1日に1回、夏は1日に

2回、冬は2日に1回、決まった時

間



間に水をあげるといいでしょう」

栽培に慣れてきたら、形を整える段階に入る。上級者になるとさまざま

な道具を用いるが、最初は、枝葉を剪定する「盆栽ばさみ」と、雑草を

取り除く際に用いる「コテ付きのピンセット」を用意する。ただし、むや

みに手を入れるのは避け、ちよつと切り足りないくらいで止めるのがコツだ。

「盆栽は形を整えるのに目が行きがちですが、実は世話をすることこそ

が醍醐味。どうすれば元気になるのか考え、わずかな変化を楽しんでいるうちに、盆栽の世界にはまり込ん

でいるかもしれません」

高度なテクニックは、専門家から学ぼう。

ある程度要領がつかめてきたら、

少し大きな盆栽を育てたり、枝の形

状を変える針金かけなど難易度の高い手入れに挑戦したりするのもいい

だろう。鉢の色や形にこだわり、また、水石(觀賞用の自然石)などの添景(盆栽の周りを飾る添え物)を

使ってみるのも面白い。

しかし、この段階になると我流では壁にぶつかるかもしれない。その

ときは、近隣の盆栽園に相談したり、教室に通ったりなど、専門家の

教えに耳を傾けたい。最近では、オンラインで開催される盆栽教室も増

えているので、興味がある方は参加してみるとういだろう。

「細かなテクニックや仕立てのルールは存在しますが、何を表現するかは作り手の自由。創造力を存分に発

揮して、理想とする景色を再現してください」



上／「松柏」に分類されるアカマツの盆栽。中左／「実もの」のシロシタン。夏から秋にかけて実をつける。中右／「雑木」のブナとコハウチワカエデ。この盆栽には「高原の風」と銘が付けられている。下／「花もの」のボケ。



清香園の展示販売風景。

有限会社清香園
〒331-0805 埼玉県さいたま市北区盆栽町268
☎0120-464-870 <https://www.seikouen.cc/>

清香園では「はじめての盆栽 オンライン講座」を開講中。上記のWebサイトから申し込みめる。同園が位置する盆栽町には、戦前より多くの盆栽業者が集住し、今も多くの盆栽園が立ち並んでいる。

(注) 記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただけますようお願いいたします。